

昨年末、初めてカナンの園後援会の街頭募金活動に参加しました。日曜日の礼拝後のわずかな時間でしたが、私も盛岡の肴町で「カナンの園の働きのためにご協力を」と呼び掛けました。繁華街の日曜日とはいえ、12月の寒さの中、人通りは多いとはいえませんが、頑張りましたが、街頭に立ったみなさん、頑張っておられました。

この活動に参加しながら私は、そもそもカナンの園の働きとはいったい何だろうかと思いを巡らしていました。1970年代初頭、カナンの園はその出発のときからキリスト教の価値観を精神的な柱としてきました。つい2年前に奥中山教会に赴任した私ですから、その歴史と一緒に歩んだ訳ではありませんが、聖書の語る「小さくされた者」と共に生きようとするその働きに深く



毎週木曜日、奥中山学園の学園礼拝にて。

共感しています。私がお手伝いをしている奥中山学園の木曜礼拝をはじめ、折々の礼拝の中で「主の祈り」がみんな祈られていきます。それはキリストご自身が「こう祈りなさい」と教えてくださった大切な祈りです。その一節に「み国が来ますように。みこころが天に行われるとあり、地にも行われますように」とあり、

ります。神のみこころが行われる天国(み国)とは、全ての命がいきいきと生かされる世界といってよいかと思えます。それはやがて地上にも実現する希望の世界です。カナンの園では、知的な障がいがある方、生きにくさを感じている方たちが、学びの場、働きの場、生活の場などで、職員や多くの方々のサポートを受けながら、よりよく生きるために歩んでおられます。むしろ不自由さやトラブルもあるでしょうが、それを受け止め、一緒になって取り組む姿に、敬意を覚えています。私もみなさんとの関わりの中で豊かな経験が与えられています。そして、ここに一人ひとりが大

切にされる小さな天国、あるいはそれを映し出す世界があるのではないかと、私は感じるのです。さらにそれはカナンの園の中にとどまらず、地域で暮らす人たちの間にも広がっているのではないのでしょうか。しかし、社会の現実、近くでも遠くでも災害や争いごとが絶えず、とても天国とは思えません。それでもこの小さな天国が示されていることを喜び、少しでもそれを広げていくことが私たちの願いであり祈りです。その意味で、街頭募金はカナンの園の働きを多くの方に知ってもらう機会であると共に、協力してくださる方々の思いが加わって、小さな天国がさらに広がることにつながっていると感じました。

TSK カナンの園

145

みこころが天に行われるとおり、地にも街頭募金に思う

日本キリスト教団奥中山教会牧師 長尾邦弘

No.145
発行日/2025年3月15日
編集/社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

編集者 社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七 ☎0195-36-1026

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会(略称TSK)
〒980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎一丁目二二六 頒価百円

●——お知らせ
カナンの園と一緒に働きませんか。
カナンの園では「支援職員」「事務員」などを募集しています。「カナンの園の願い」に共感し、一緒に実現しようとする方と共に働きたい、というのが私たちの一番の願いです。学歴、経験、資格の有無、年齢などを問うよりも、自分たちが何を一番大切にしているかを問い続け、一緒に歴史を紡いでいければいいな、と思います。機関誌やホームページなどをご覧になって、カナンの園で働いてみようかな、もう少し話を聞いてみたい、と思った方、あるいはこんな人を紹介したい、という方は、事務局にご連絡ください。
電話0195-36-1026
E-mail : honbu@canaan-jp.net

Scope & Spot

2024年4月からウィズ事業所のメンバーとなり、PET作業のラベルはがしなどを頑張っている岩崎毅さん。いつもニコニコして笑顔がとても素敵です。物知りで、昔の奥中山のことを話してくれます。また、旅行が好きでいつも日本地図を見ており、色々な場所の美味しいお店の話なども紹介してくれます。歌も好きでカナンの園クリスマス賛美礼拝のコーラス隊募集の話があると、参加したいとのこと、練習から参加し、当日もステキな歌声を聞かせてくれました。

●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。お読みになってのご意見、ご感想などを事務局までお寄せください。

- 社会福祉法人カナンの園
- 福祉型障害児入所施設 奥中山学園 ☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
 - 多機能型事業所 ゆいまある ☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
 - 多機能型事業所 小さき群の里 ☎0195-35-3080 FAX 0195-35-2780
 - 共同生活援助事業所 ののさわ(グループホーム1~6) ☎0195-35-2232 FAX 0195-35-3405
 - 生活介護事業所 ヒソブ工房 ☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
 - 共同生活援助事業所 HANA(盛岡地区グループホーム1~5) ☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
 - 特定相談支援事業所 らぼーる ☎019-656-6863 FAX 019-656-0553
 - 生活介護事業所 シャローム ☎0195-35-2883 FAX 0195-35-2884
 - 就労継続支援B型事業所 ウィズ ☎0195-36-1120 FAX 0195-36-1121
 - 就労継続支援A型事業所 カナン牧場 ☎0195-35-2583 FAX 0195-35-3145
 - 共同生活援助事業所 美空(グループホーム1~10) ☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
 - 居宅介護事業所 れもん ☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
 - 障害児相談・特定相談支援事業所 むつび ☎0195-35-3665 FAX 0195-35-3840
 - 多機能型事業所 となんカナン ☎019-681-3004 FAX 019-637-2601
 - カナン市場(カナンの園商品一括取扱所) ☎019-639-3120 FAX 019-637-2601

本誌は環境に配慮した紙を使用しています。

特集

「音」の不思議さ、 「音楽」の楽しさ

2024年12月8日、三愛学舎を会場に山本音楽教室（奥中山）のピアノ「おさらい会」が開催されました。ピアノ教室の生徒さんには、奥中山地域の子どもをはじめ、三愛学舎の生徒、そして三愛学舎を卒業してからも通い続けている方々もたくさんおられます。「おさらい会」自体は今回で28回目を迎え、三愛学舎の新校舎を会場とするのは2回目です。山本先生の一人ひとりの個性に合わせたレッスンの下、ピアノを弾く喜び、一曲一曲仕上げの喜び、友だちと合わせる楽しさ、音楽を通して豊かな心が育てられているように思います。発表会では緊張しながらも練習の成果を発揮しました。山本先生、演奏者、保護者の声をお届けします。



一人ひとりの楽しみ方に寄り添う（手前：瀬川咲希さん、奥：山本範子先生）。

私の中で響く「音」

奥中山の「南の風」はご存じですか。奥中山に障がいのある人もない人も気軽に立ち寄れる場として、故上田初子先生が開いた喫茶店「北の風」（今は閉店してお蕎麦屋さんになっています）のお隣にあるログハウスが「南の風」です。

奥中山の山本音楽教室は30年前に「南の風」でスタートしました。この間、奥中山学園や三愛学舎の生徒さんが通ってきました。卒業してからも働きながら、レッスンに来てくれる方もいます。旅立っていった卒業生の方々のことも含め、ピアノを通してたくさん思い出がよみがえってきます。本当にうれしいことですね。「ありがとう」という気持ちでいっぱいです。

教室の生徒の皆さんは、レッスンバックを持ち、元気にあいさつをしてニコニコと机に向かいます。そして音楽ノートを書きながら、自分の順番を待っています。

レッスンの中で、ある生徒さんは通い始めた頃は「ポン」とピアノをたたき、グルグル回り、また「ポンポン」とたたきグルグル回っていたのが、次第に1分、3分、次は5分と椅子に座ってピアノを弾き、今では一曲が弾き終わるまで座って何回も弾いています。また別の生徒さんは、私と一緒に弾き「元気にね」と言うと元気に弾き「静

かにね」と言うと静かに、優しく弾き、不思議な音色になり教室中に鳴り響いています。「こんな音は出せないわよ！」と感心して言うと、ニコニコしながら弾いてくれます。一つひとつの音が響き、流れるようなメロディーが私の中に伝わってきます。

30年続けてみて、音楽の楽しさは楽譜の中での音ではなく、それぞれが醸し出す元気な音や静かな音が不思議な音色に変わっていく、そんな音楽の楽しさを教えてくれたと思っています。

2024年12月の「おさらい会」では、笑顔いっぱい一生懸命ピアノに向かってる姿に感動しました。これからも、皆さんと頑張っていきたいです。ありがたい気持ちでいっぱいです。

山本音楽教室 山本範子

ピアノ発表会

昨年の12月に山本ピアノ教室のおさらい会がありました。ピアノ教室に通っている生徒さんがたくさん参加しました。

自分は、ベートーヴェンの「エリーゼのために」を弾きました。9月頃から発表会に向けて練習してきました。練習では、最初は片手ずつ、慣れてきたら両手を合わせて練習しました。右手の32分音符の指を速く動かすところ



ベートーヴェン「エリーゼのために」を弾き終えた七戸健太さん。

や、同じ音を、指を入れ換えながら連打するところ、ペダルの踏み方など難しいところが何か所かありました。山本先生に教えてもらいながら、少しずつ弾けるように練習を頑張りました。そして、発表会本番になりました。たくさんの方が来ていて、とても緊張しました。自分の発表する番になり、ピアノを弾き始めました。最初は、緊張でゆっくり弾き過ぎたところもあり

ましたが、徐々に緊張もほぐれて演奏に集中できました。難しいところもあり間違えずに弾けたのでよかったです。他の生徒さんも、とても上手できれいな演奏でした。いろんな演奏が聴けてとても楽しかったです。

これからも、上手になれるようにピアノを頑張りたいです。

カナン牧場従業員 七戸健太

心洗われる時間

「今年のおさらい会は何を弾くの？」
答えが返ってくることはないし知りつつ、毎年同じ質問をしてしまいます。そして、おさらい会当日、山本先生と並んでピアノの前に座った文博は、とても楽しそうに、少し誇らしげに演奏します。今年も一本の指で何曲もの子どもの歌を弾いています。

山本ピアノ教室のおさらい会は、障がいのある人もない人も、誰もが自分の好きな音楽を自由に个性的に表現し、聴く者にとって心洗われるような素晴らしい発表会です。
山本先生と文博の出会い、文博が



「音」を楽しむひととき（小原文博さん）。

みだけ養護学校奥中山校小学部のと、当時児童デイサービスでお世話になっていた奥中山学園の佐々木さんの紹介によるものです。
二語文は話せないのに「故郷」の歌詞は3番まで覚えていたほど歌や音楽が好きなので二つ返事をお願いしました。それから20数年、いつも笑顔の優しい山本先生の指導で文字通り「音」を楽しむ時間を重ねています。
おさらい会の会場にもなっている三愛学舎は、文博が5年間お世話になったのですが、音楽に力を入れておられない、在学中には当時流行していた私の知らない歌を口ずさんで驚かされたり、卒業式での合唱の美しい歌声に涙したりしたものでした。
文博にとって好きな音楽にずっと恵まれた環境にいられることに感謝しています。
これからも音楽と共に心豊かな日々を過ごしていくことを願ってやみませ

小原咲子

（小さき群の里、ののさわ事業所
小原文博さんのお母さま）

シアワセのおすそ分け

日々の暮らしの中で、ほっこりしたり、ニコツツしたり、思わず吹き出してしまったり。それは日々の仕事の中でいただく、予期せぬプレゼントであり「シアワセ」を感じる瞬間でもあります。ほんの少し、皆さんにもおすそ分け。

先生、人生相談です

「先生、人生相談です」。そんな流行りの音楽の一節のようなことってあるのかな…と内心思いながらも話を聞き始めました。どうやら友だちと争いをしてしまい、思ってもないことを言ってしまったとのこと。

表情や普段の様子から深刻な話でもなさそうなので「そんなこともあるよね」と、うなずきながら聞きました。後日、相談のあった生徒とその友人が二人並んで談笑しているのを見て「今日も頑張ろう」。なんとなくそんなことを思いました。

（三愛学舎）



相談会

私が担当する寮のメンバーは高校生ばかり。そんなこともあって、定期的に「相談会」が開かれます。誰かの悩みや相談にみんなで励ましたりアドバイスをしたりします。先日、私が「や



ってしまったなあ」と思うことがあり、みんなに相談してみました。

「気にすることないよ！」「私もさあ、前そういうことあったよ」「悪いところもあると思うけど…でも大丈夫だ！」などそれぞれ声を掛けてくれて、最後はみんなでエールまでしてくれました。彼らと年齢も近い私。みんなの優しさにほっこりして、また一緒に頑張ろう！と思ったのでした。

（奥中山学園）



人間にもあいさつを？

となんカナンの朝は、利用者さんたちの元気なあいさつから始まります。そんな中、Aさんは事務室へ入るなり、そのまま静養室に行き、そこになぜか置いてあるおさるの人形「モンチッチ」に「モンチッチおはよう！」と声を掛けます。

すかさず所長が「Aさん、人間にもあいさつしてね」と言うと、ちよっとはにかみながら「おはよう」と言います。恒例ですが、なかなか雰囲気が始まるとなんカナンの朝の光景です。

（となんカナン事業所）

おでこスリスリ

Y子さんはおしゃれが大好きで、年中（もちろん真冬でも）ブラウスにスカートといういでたちです。ある日Y子さんを迎えにいったときのこと。「かわいいスカートね！」と声を掛けると満面の笑みで私の顔を両手で持つて自分に近付けていきました。

「キスされる?!」（女同士だけど）と思った瞬間、私のおでこに自分のおでこをくっつけてスリスリしてきたのです。おでこの温もりと共に気持ちまで暖かくなる「スリスリ」でした。

（シャローム事業所）



おいしかったなあ



担当の生徒たちがメニューを考え、買い物も調理も行う三愛学舎本科の昼食。その日の昼食は、一人の生徒のリュックエストメニューとのことで、チーズバーガー、フライドポテト、バナラシエイク、カボチャのポターージュ、プロテインサラダでした。

某ハンバーガーチェーン店をほうふつとさせるようなメニューですが、パズはカナン牧場に注文して特別に取り寄せたものでした。

「カナンバーガーだね、月に一度位の割合で食べたいね」などと皆で大喜びしながらいただきました。

（三愛学舎）

コロナを乗り越えて



11月に函館へ一人旅に出掛けたMさん。新型コロナで見通しの持てない数年間を必死に乗り越え、数カ月前から綿密な準備を重ねて、無事にとっても楽しい旅行になったようです。「〇〇から〇〇まで路面電車に乗りましたよ」「ラッキーピエロのハンバーガー、いいでしょ！」と、函館の名所やお店でもらったパンフレットをたくさん広げて、旅の思い出を喜びいっぱい笑顔で話してくれました。

それぞれで、そして共に苦労を重ね、いつか乗り越えられる日が来ると耐えてきたコロナ禍でしたが、Mさんの願いが一つかなったことで、私たちも彼の幸せをおすそ分けいただいたようなうれしい出来事でした。

（生活支援センター）

MINI LETTER

奨学金返済支援制度

福祉に関わる者たちは、社会に目を向け、社会が抱える課題、特に困難な状況に置かれていの方々のことに目を向けていなければ、と思つ。

ある日事務局内で、奨学金を返済することが負担になり、中には日々の暮らしだけではなく、結婚、子育て、住居などの人生設計にまで影響を感じている方々が少なからずいる、ということが話題となった。

そういう人もいるんだろうね、大変ですね、切ないですね、で終わる話だったかもしれない。しかし、そうはならなかった。同じような悩みを抱えた職員がいるかもしれない、と匿名のアンケートを取ってみると、実際に負担を感じながら返済を続けている職員がいることが分かり、職場として支援することに賛成、逆に公平性を担保できるのか、という意見などが寄せられた。

その後、検討と準備を重ね、今年度、カナンの園奨学金返済支援制度が始まった。人材難の時代にあつて「他に先駆けての取り組み」は、独自性で（よりよい職場）をアピールできる要素かもしれない。それを否定するつもりはないが、それよりも、工夫と共感と少しの手間と努力をすれば、私たちにも社会が抱える課題の解決への手がかりをつくれるのだ、ということに喜びを感じている。

（事務局 佐藤真名）

5年ぶりの街頭募金

感謝の気持ち伝え合える場に



子どもたちもチラシ配りなどを手伝ってくれました。



雪降る中での募金呼び掛け。

50余年前、カナンの園の創立を願い、岩手県内の教会関係者の方々が中心となってカナンの園設立委員会が設置されました。その流れの中で、活動の一つとして始まったのが街頭募金です。

その後、後援会が組織され、12月の週末を中心に続けられ、カナンの園後援会の街頭募金は盛岡市の歳末の風物詩の一つ、といわれるまでになりました。盛岡市内の教会の方々、ポーンカウト・ガールスカウトの方々、学生さん、カナンの園の利用者さんや職員、そのご家族などがボランティアで参加し、カナンの園の活動を紹介します。募金を呼び掛けてきました。厳寒期の街角に2時間近く立ち続け、募金を呼び掛けることは、肉体的には楽なことではありませんが、集められる寄付はもちろん、その場で交わす言葉、ふれあいはかけがえのないものとして続けられてきました。

新型コロナウイルスの感染拡大で2019年以来、その貴重な場を中断せざるを得ませんでした。昨年12月に再開。実に5年ぶりのことでした。12月1日・8日・15日の3回、いずれも日曜日の午後の活動となりました。かつてよりは穏やかな気候の中でしたが、それでも週ごとに寒さは増し、15日は雪の舞

う中での募金活動となりました。5年たつと人の入れ替わりもあり、参加人数も中断前の半分ほどとなりました。しかし、当日参加や飛び入り参加もあり、特に小さなお子さんたちが街頭に立って呼び掛けてくださる姿はほほましいものがありました。

盛岡の街は中心部への人の流れが減り、郊外の大型ショッピングモールや駐車場のある大型店に向かっていく傾向は止めようがありません。それでも、旧来と同じ形で募金活動が行えたことは、それはそれで意味があったように思います。

カナンの園の活動を紹介します。チラシを見て募金してくださる方、「久しぶりの募金ね」「カナンパン、いつも食べていますよ」と声を掛けてくださる方もいて、街頭に立つ私たちからも、感謝の気持ちを伝えることができました。手間、時間、経費などの物差しで計れば効率的とはいえず、時代にそぐわない活動という捉え方もあります。それでもこのような「場」を持つことが相互関係を大切にするカナンの園ならではの形でもあり、街頭に立った一人ひとりが感じたことでもあったように思うのです。

（事務局 佐藤真名）

ことばひろい 第44回

イクラ!

小さき群の里事業所副所長

京野克彦

Kさんは、小さき群の里事業所の中では、言葉でご自分の意思を表現できる方の一人です。そのKさんの個別外出にお付き合いです。そのKさんの個別外出においても個別外出の中でも食事を一番楽しみにしている方は多く、ご本人の希望を聞き、それをどのように組み立てていくかは担当者の腕の見せどころともいえます。

「どんな食べ物が好き？」と私が尋ねると「イクラ！」とはっきり答えるKさん。何度か尋ねてもいつも答えは同じ「イクラ！」でした。

Kさんの親御さんにも今回の外出の予定を伝え、食べ物の好みを聞いてイクラが好きと話していたので、おすし屋さんに行こうと思います、と伝えるところ「おすし屋さんではいつもイク



ラを一番はじめに食べますね」と教えてくださいました。

「え、そうなんですか」

と少し詳しくお話を伺うと「子どももの頃に「どんな食べ物が好き？」と聞かれたときに「イクラのおすし」と何となく答えたことがあり、それから好きな食べ物を聞かれるたびに「イクラ」と答えるようになったものの、実はイクラはとても嫌いで「目の前からなくなつてほしいから、はじめに食べる」「みたいなのです」と教えていただきました。

本当は嫌いな食べ物なのに、聞かれるといつも同じ答えをして好きと思われてしまうのはつらいだろうな、と思わされました。

嫌な経験をしたら同じ答え方をしなければいいのに、と思うのは私がKさんの内面にまで思いが及ばず、表面的な言葉で判断してしまっているということなのかもしれない、と思ったのでした。

目の前で起きている事柄や本人から語られる言葉が、常にその方の本心を示している訳ではないし、当然と思われる結論は正解でないこともあるようです。

意思決定支援という言葉を知りようになつてしばらくたつように思います。私たちの仕事は利用者さんの希望する暮らしの実現をお手伝いする仕事です。いかに利用者さんの気持ちを正確に捉えるかが個々の支援の精度を高めるといっても過言ではありません。

利用者さんとの関わりが深まると、言葉のトーンで今のはそのまま表現通りに受け止めていいのか、違った中身を聞き取らなければならぬかが、少しずつ分かるようになる気がします。

日々の関わりを重ねる中で、利用者さんの「意思」や「本心」を拾い上げる努力が私たちには不可欠なことです。今回のことも、親御さんにお話を伺わなければ、私はKさんに嫌いなイクラをたくさん食べさせてしまったのだと思います。私はもつとご本人の心の中や日々の表現などを探ると共に、彼（ら）と一緒にいる周りの方々とながらながら、さまざまな情報を得、そして共有することの大切さも学びました。

今回の外出で熱々のラーメンをおいしそうにするKさんを見てホッとしました。

少しずつではありますが、Kさんの気持ちを察できるようになること、そして、Kさんが本当に好きなもの、心のうちにある思いなどを他の人にも伝えられるようになりたい、と思った出来事でした。